

12月28日 聖家族

神は約束を守られる

ルカによる福音書 2 章 22～40 節

²² さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。²³ それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。²⁴ また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。

²⁵ そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。²⁶ そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。²⁷ シメオンが「聖霊」に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。²⁸ シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

²⁹ 「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり

この僕を安らかに去らせてくださいます。

³⁰ わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

³¹ これは万民のために整えてくださった救いで、

³² 異邦人を照らす啓示の光、

あなたの民イスラエルの誉れです。」

³³ 父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。³⁴ シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。³⁵—あなた自身も剣で心を刺し貫かれます—多くの人々の心にある思いがあらわにされるためです。」

³⁶ また、アシエル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、³⁷ 夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、³⁸ そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。

³⁹ 親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。⁴⁰ 幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。

他の朗読：創世記 15:1～6, 21:1～3 詩編 105:1～6, 8, 9 ヘブライ 11:8, 11, 12, 17～19

Lectio …読む

ヨセフとマリアはモーセの律法に従い、彼らの最初の息子を神に捧げるためにイエスをエルサレムの神殿に連れて行きます。神殿の中で、彼らはシメオンとアンナというふたりの預言者に出会います。

聖霊はシメオンに、「メシアを見るまでは死なない」と約束していました。聖霊は、この約束の実現のためシメオンを神殿へと導くのです。

しかし、シメオンがイエスについて預言しはじめた時に、この出会いは遥かに大きな意味を持つようになります。はじめにシメオンは、天使が羊飼いたちに告げた言葉を繰り返します。イエスはすべての人のために神によって立てられた救い主、メシアであると。ここでシメオンは、「万民」が文字通りすべての人を意味することを明確にします。救いは、ユダヤ人だけでなく、異邦人にも及ぶのです。

シメオンはまた、人々がイエスにどう応えるかによって、救いにも滅びにも導かれうることを告げ

ます。

その後すぐにアンナとの出会いがありました。アンナは神に感謝を捧げ、メシアを待ち望むすべての人にイエスについて話した、ということだけが我々に伝えられています。

最後に、私たちはヨセフとマリアがナザレに戻ったということを知ります。このナザレでイエスは成長します。イエスは知恵が増し、神の祝福がいつも彼の上にあります。

Meditatio …黙想する

私たちは、シメオンとアンナから、また彼らと神との関係から、何を学ぶことができるでしょうか。

イエスが「光」として表現されていることを考えてみましょう。これはあなたにとって、またあなたの周りの人々にとって何を意味するのでしょうか。

これらのみことばは、聖霊の照らしや導きについて、私たちに何を教えているのでしょうか？

Oratio …祈る

あなたの信仰を深めてくださるように神に願いましょう。詩編 105 編の最初のみことばを 1 日を通して繰り返してみてください。

「主に感謝をささげて御名を呼べ。諸国の民に御業を示せ。」

Contemplatio …観想する

神は約束を守られます。完全に信頼できる方です。マリア、シメオン、ザカリア、エリザベト、そしてアブラハムは皆、このことの証人です。どうしようもないような状況の中でも神を信頼することが、他の朗読箇所でもテーマになっています。

創世記 15 章 1～6 節で、長く子供に恵まれず、すでに老齢となりながらも神の約束を信じ続けたアブラムとサライについて聞きます。彼らは一人の息子イサクに恵まれます (創世記 21 章 1～3 節)。

15 章 6 節にはこうあります。「アブラハムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」

ヘブライ人への手紙 11 章は、多くの偉大な信仰の例を挙げています。今日の朗読では、アブラハムの生涯における、信仰と従順の 3 つの具体的なステップに焦点を当てます。これらの例は、私たち自身の信仰を養う為に与えられています。神からの応えは必ずしもすぐに、簡単に来るとは限りません。しかし困難な時にも、私たちはこれらのことばによって力づけられ、神を信頼し続けることが出来るでしょう。